

世界の産業 最前線



主要業種の今後とわが国企業の対応

三菱銀行調査部 編

東洋経済新報社

世界の産業 最前線

主要業種の今後とわが国企業の対応

三菱銀行調査部 編

東洋経済新報社

世界の産業最前線

1991年2月14日 発行

編者 三菱銀行調査部

発行者 中島資皓

発行所 〒103 東京都中央区日本橋本石町1-2-1 東洋経済新報社

電話 編集03(3246)5661・販売03(3246)5467 振替 東京3-6518

印刷・製本 東洋経済印刷

本書の全部または一部の複写・複製・転写・転記および磁気または光記録媒体への入力等を禁じます。これらの許諾については小社までご照会ください。

© 1991 〈検印省略〉 落丁・乱丁本はお取替いたします。

Printed in Japan ISBN 4-492-76083-0

は し が き

“もはや「戦後」ではない、われわれはいまや異なった事態に当面しようとしている。回復を通じての成長は終わった。”1956年（昭和31年度）の『経済白書』は、こう述べている。戦後の荒廃した焼土から立ち直ったわが国は、その後35年間に、東京オリンピック後の構造不況、ニクソンショック、2度にわたる石油危機、円高不況等、内外の数多くの試練を乗り越えて、今や米国に次ぐ世界第2の経済大国として、大きな影響力を持つに至った。これは、わが国産業界の各企業が、試練をビジネスチャンスとして果敢にチャレンジし、内外市場でのシェア拡大と収益力向上にしのぎを削ってきたからにはほかならない。これを支えたのは、政府の適切な経済運営であり、さらには、終身雇用で代表される労使協調体制、何層にもわたる柔軟な下請構造、長期的視野に立った技術開発体制、などわが国独特の経営システムであった。

しかし、時代が昭和から平成に移るのと時期を同じくするように、わが国産業界にもひとつの節目が訪れようとしている。それは、わが国の経済力が高まったがゆえにもたらされる他国とのさまざまなあつれき、冷戦構造の終焉に伴う国際社会の枠組みの変化に、これまでのわが国の経営システムでは対応が難しくなっているからではあるまいか。昨今、話題にのぼることの多い欧米諸国との「投資摩擦」、「市場開放問題」等に関しても、個々の問題への対応もさることながら、経済成長を最優先課題として追求し続けてきたわが国の姿勢そのものが見直しを迫られていると受けとめるべきであろう。

もとより、工業生産の基礎となるエネルギーや鉱物資源に恵まれていないわが国にとって、海外からの輸入資源を加工し、製品を輸出することによって外貨を稼ぐという枠組みを変えることはできない。今後欧米諸国やNIEs諸国等との「競合」が進むと予想されるなか、わが国が引き続き経済の繁栄を維持できるか

どうかは、各企業の一層の経営努力に待つところが大きい。

しかしながら、一方で、わが国が、世界の資源を好きにだけ利用したり、経済繁栄を独り占めすることは、許されなくなっている。時あたかも、地球環境保護の問題が世界的にクローズアップされ、人類は宇宙船“地球号”に乗り合わせた運命共同体である、との認識が広がりを見せ始めている。そのなかにあってわが国に対しては、世界へのより広範かつ積極的な「貢献」が期待されているのである。世界は、わが国が戦後歩んできた道を驚異と羨望の眼差しでみる一方、わが国が今後歩もうとする道を期待と不安を抱きつつ見守っているのである。このようにわが国をとりまく環境が大きく変化しつつあるなかで、わが国企業にも、“地球号”の一員として「協調」を念頭に置いた企業活動が今まで以上に強く求められることになろう。

本書は、以上のような問題意識の下、三菱銀行調査月報に、88年（昭和63年）12月から16回にわたって掲載した「世界の産業シリーズ」に一部加筆・修正してまとめたものである。執筆に当たっては、当部産業調査グループの業界担当者を中心に、当部ニューヨーク、ロンドン、香港、シンガポールの各駐在員、並びに当行各支店の協力をえた。

90年代に臨み、世界の主要産業の実状とわが国産業の将来を考えるうえで、本書が読者諸賢に多少ともお役に立てば望外の喜びである。

1990年12月

三菱銀行調査部長

関 野 邦 夫

序	永峯 常雄
第1章 自動車	下澤 伸介 (「調査」平成2年7月号掲載)
第2章 コンピュータ	滝村 竜介 (「調査」平成元年3月号掲載)
第3章 半導体	氏家 隆男 (「調査」平成元年6月号掲載)
第4章 家電	中名生正弘 (「調査」平成元年1月号掲載)
第5章 航空機	永峯 常雄 (「調査」平成元年2月号掲載)
第6章 鉄鋼	片岡 実 (「調査」平成元年5月号掲載)
第7章 石油	七條 博明 (「調査」平成2年9月号掲載)
第8章 製紙	野村 達 (「調査」平成元年7月号掲載)
第9章 医薬品	太田 三男 (「調査」昭和63年12月号掲載)
第10章 航空	郡司 伯弘 (「調査」平成2年8月号掲載)
第11章 石油化学	鈴木 直人 (「調査」平成元年8月号掲載)
タイヤ	稲波 輝雄 (「調査」平成元年9月号掲載)
工作機械	永峯 常雄 (「調査」平成元年10月号掲載)
重電	花本 朗 (「調査」平成2年2月号掲載)
コンピュータ周辺機器	中名生正弘 (「調査」平成2年5月号掲載)
クレジットカード	岸 真一 (「調査」平成元年2月号掲載)

世界の産業最前線 目次

は し が き

序 新たなグローバル化の時代へ3

0-1 世界の主役に躍り出たわが国の産業 3

0-2 厳しさを増す国際環境 6

0-3 内外にわたる「競合と協調」の時代へ 10

1 自動車——模索される競合下での国際協調13

1-1 自動車産業の概要と特徴 13

1-2 変貌する需給構造 18

1-3 今後の展望と各国及び日本車メーカーの対応 24

2 コンピュータ——キーワードは「分散処理」と「標準化」35

2-1 コンピュータ産業の概要と特徴 35

2-2 進展する分散処理と標準化 40

2-3 今後の展望と各国の対応 45

3 半導体——新しい「競合と協調の時代」へ53

3-1 半導体産業の概要 53

3-2 急成長する市場と高まるわが国メーカーのシェア 56

3-3 需要の質の変容と激化する企業間競争 58

4 家電——将来を左右する技術開発力	71
4-1 家電産業の概要と特徴	71
4-2 優位を占めるわが国家電産業	73
4-3 今後の展望と各国の対応	76
5 航空機——盛り上がる国際的な提携機運	83
5-1 航空機産業の概要、特徴	83
5-2 揺らぐ米国メーカーの圧倒的優位	87
5-3 日・欧の台頭と本格的提携時代の始まり	95
6 鉄鋼——進展する「高付加価値化」戦略	101
6-1 鉄鋼産業の概要	101
6-2 変貌する需給構造	106
6-3 二極化する需要ニーズとそれへの対応	111
7 石油——供給過剰の終息と進展する構造変化	125
7-1 石油産業の概要と特徴	125
7-2 80年代の石油産業と進展する構造変化	129
7-3 90年代の展望	137
8 製紙——問われ始める国際競争力	149
8-1 製紙産業の概要と特徴	149
8-2 拡大する市場と変化する環境	153
8-3 今後の展望と各国の対応	158
9 医薬品——死命を制する新薬開発力	167
9-1 医薬品産業の概要と特徴	167
9-2 拡大する市場と問題点	170
9-3 今後の展望とわが国医薬品産業の対応	173

10 航空——規制緩和で進む業界再編181

10-1 航空業界とは 181

10-2 空前の好況と変貌する業界環境 183

10-3 今後の展望と各国の対応 188

11 その他主要産業.....201

11-1 新たな進路を模索する世界の石油化学工業 201

11-2 再編進む世界のタイヤ産業 206

11-3 新たな発展期を迎える世界の工作機械産業 210

11-4 新たな競合段階を迎える世界の重電産業 214

11-5 拡大する世界のコンピュータ周辺機器産業 218

11-6 新たな局面を迎える世界のクレジットカード産業 222

図 表 目 次

序

- 第0-1表 主要製品についてのわが国の生産高と世界におけるシェア推移 4
0-2表 機械の生産増に対する輸出の寄与率 5
0-3表 わが国の貿易収支の推移 7
0-1図 わが国海外直接投資額推移 8

1 自動車

- 第1-1図 世界主要地域別自動車生産シェア推移 14
1-2図 自動車に使用される主要資材及び部品 15
1-1表 各国・地域別日本車規制の概要 17
1-2表 世界自動車生産台数推移 18
1-3図 主要国自動車販売に占める新規需要比率推移 18
1-4図 主要国自動車生産・輸出台数と輸出比率 19
1-5図 自動車輸出の主要国別シェア推移 20
1-3表 各国別自動車産業計数表 20
1-4表 米国、EC 乗用車市場における日本車販売台数・シェア推移 21
1-5表 日本車メーカーの北米及び英国での現地生産概況 22
1-6表 世界自動車需要予測 25
1-6図 ビッグスリー売上高純利益率推移及び米国自動車市場での日本車販売台数
26
1-7図 各国乗用車セグメント別販売比率 28
1-8図 欧州メーカー売上高純利益率推移及びEC自動車市場での日本車販売台数
29
付表1 自動車メーカー世界ランキング 33

2 コンピュータ

- 第2-1図 コンピュータの構造 36
2-2図 コンピュータの分類 37
2-3図 米国電子産業の売上高研究開発費率推移 38

- 2-1表 地域別コンピュータ生産額推移 41
- 2-4図 コンピュータの利用形態の変化 42
- 2-5図 クラス別コンピュータ出荷金額（世界市場） 42
- 2-2表 米国コンピュータメーカーの売上高推移 43
- 2-3表 欧州主要国のメーカー別出荷高 47

付表2 コンピュータ産業の主要企業ランキング 51

3 半導体

第3-1図 半導体の分類 54

- 3-1表 地域別半導体需要推移 56
- 3-2図 ICの各国別メーカーシェア推移 57
- 3-3図 ASICの生産額、構成比推移 59
- 3-4図 わが国市場における外国系半導体のシェア、販売額推移 61
- 3-5図 ASICの各国別生産シェア 63
- 3-6図 32ビットMPU生産シェア 63
- 3-7図 日米両国の業界構造比較 64
- 3-8図 用途別半導体需要額（地域別） 65
- 3-2表 アジア各国の半導体生産額 67
- 3-3表 韓国メーカーの半導体売上高推移 67

付表3 半導体産業の主要企業ランキング 70

4 家電

- 第4-1表 ラジオ・テレビの主要生産国推移 74
- 4-2表 カラーテレビ米国市場シェア推移 75
- 4-1図 市場別VTRシェア 75
- 4-3表 フィリップス、トムソンによる企業買収等の動き 78

付表4 家電産業の主要企業ランキング 82

5 航空機

- 第5-1図 航空機の分類 83
- 5-2図 航空機技術の概念 84
- 5-3図 航空機技術の他産業への技術的波及的效果 85

圖書目次

- 5-4図 欧米主要産業の売上高研究費比率 86
- 5-1表 主要国の航空機売上 87
- 5-5図 航空機売上の推移とその背景 88
- 5-2表 民間航空機の発展段階 89
- 5-6図 航空機市場における米欧日のシェア推移 91
- 5-7図 米欧の航空機技術力比較 91
- 5-8図 民間旅客機分野での主要3社の品揃え状況 92
- 5-9図 わが国の航空機売上の推移と主要製品の生産状況 93
- 5-3表 わが国の主要な航空機メーカー 94
- 5-4表 現在開発中の新型民間航空機 96
- 5-5表 米国とわが国との共同開発(機体)プロジェクト 97
- 付表5 世界の航空機メーカーランキング 99

6 鉄 鋼

- 第6-1表 世界の主要素材生産量比較 102
- 6-1図 1人当たりGNP(名目)と1人当たり粗鋼見掛け消費量の関係 102
- 6-2図 鉄鋼需要のライフサイクル 103
- 6-2表 わが国主要産業における売上原価構成比比較 104
- 6-3表 世界の国別粗鋼生産順位 105
- 6-3図 世界の鉄鋼消費推移(粗鋼ベース) 106
- 6-4図 地域別需要推移 107
- 6-5図 地域別粗鋼需給推移 108
- 6-4表 先進国の粗鋼生産増加局面における内需純輸出別寄与 109
- 6-5表 先進国鉄鋼メーカーの売上高純利益率推移 110
- 6-6表 地域別粗鋼見掛け消費予測 111
- 6-7表 中進国の能力増強計画 112
- 6-6図 米国、日本、ECの粗鋼生産能力、実績推移 114
- 6-8表 先進国の生産性改善努力 115
- 6-9表 先進国の製品構成の高度化 115
- 6-7図 米国の鋼材輸入動向 116
- 6-10表 ECの国別補助金の内訳 118
- 6-11表 わが国高炉大手5社の体質改善計画の概要 119

6-12表	わが国鉄鋼産業の品質面での優位性	120
6-13表	わが国で世界に先駆けて導入、研究の進んでいるプロセス技術の一例	121
6-14表	わが国高炉メーカーの米国生産動向	122
付表6	自由世界企業の粗鋼生産順位	123

7 石 油

第7-1図	1次エネルギー需要推移	127
7-1表	日米の主要製造業の資本装備率比較	128
7-2図	日米欧主要石油会社40社の業績推移	130
7-3図	原油価格の推移	131
7-4図	世界の原油供給余力推移	132
7-2表	石油会社買収・合併の概要	133
7-3表	日米欧の精製能力推移	134
7-4表	日米欧の精製設備状況	134
7-5表	産油国の消費国下流部門への進出状況	136
7-6表	世界の原油需給の見通し	139
7-7表	アジア地域の精製設備新增設計画	144
7-8表	主要国の製油所規模比較	145
付図7	石油産業の業務の流れ	148
付表7	世界の石油会社売上高順位表	148

8 製 紙

第8-1表	世界の主要素材生産量比較	150
8-1図	紙の原料	151
8-2表	先進諸国における紙の消費量	151
8-2図	紙の貿易状況	152
8-3図	紙の消費量推移	154
8-4図	紙の貿易量推移	155
8-3表	企業、工場買収事例	156
8-5図	情報機器及び情報用紙生産推移	159
付図8-1	紙の製造工程	164
付図8-2	紙の種類	164

付表 製紙産業の主要企業ランキング 165

9 医薬品

第9-1図 医薬品の地域別消費量シェア 169

9-2図 OECD 主要6カ国の医薬品生産額推移 170

9-3図 米国、英国、日本における研究開発費の推移 171

9-1表 化学メーカーの医薬品への注力状況 176

9-4図 医薬品に関する技術収支の推移 177

9-2表 わが国医薬品メーカーの海外進出状況 178

付図9 医薬品開発の流れ 179

付表9 医薬品産業の主要企業ランキング 180

10 航空

第10-1図 ICAO 加盟航空会社の業績推移 184

10-1表 ECの航空自由化政策 186

10-2表 主要航空会社のイーロード比較 187

10-3表 主要路線別の座席利用率と利用客の前年比伸び率 189

10-4表 主要各国の入国者数に占める自国民の割合 194

10-5表 アジア諸国の主要空港における路線別旅客数 194

10-6表 わが国の3大空港プロジェクトの概要 195

付図10 世界のCRS提携状況 198

付表10 世界の航空会社営業収入ランキング 199

11 その他主要産業

第11-1図 石油化学産業における原料から製品への主な流れ 202

11-2図 日米欧の主要素材生産推移 202

11-3図 石油化学製品(エチレン)の需給ギャップと稼働率の推移 203

11-4図 日米欧主要石油化学メーカー25社の業績推移 204

11-5図 エチレン生産設備の地域別分布状況 205

付表11-1 石油化学産業の主要企業ランキング 205

第11-6図 タイヤの分類とわが国における出荷額シェア 207

11-7図 世界の自動車タイヤ需要及び地域別需要 208

11-1表	80年代における主要メーカーの買収、提携	209
付表11-2	タイヤ産業の主要企業ランキング	209
第11-2表	主な工作機械とその特徴	210
11-3表	主要国の工作機械生産額	211
11-8図	世界の工作機械生産額と製造業生産指数の推移	212
11-9図	工作機械生産額の各国別シェア変動	213
付表11-3	日本の主要工作機械メーカー	214
第11-10図	重電機器の分類	215
11-11図	わが国の重電機器の需要者別受注額の推移	215
11-12図	世界の重電機器生産額推移	216
付表11-4	重電産業の主要企業ランキング	217
第11-13図	コンピュータ周辺機器の分類	219
11-14図	コンピュータ周辺機器各商品の発展段階	219
11-4表	世界のコンピュータ周辺機器市場	220
付表11-5	コンピュータ周辺機器の主要企業ランキング	221
第11-5表	米国、日本、欧州におけるカードビジネス小史	222
11-6表	各国のカードブランド別クレジットカード発行状況	224
11-7表	各国の業態別クレジットカード発行状況	224

世界の産業最前線

